

■岩手県KB連盟熱中症予防対策ガイドライン（令和8年1月31日版）

WBGT（℃）	運営指針	試合会場での対応
35以上	原則試合の中止	試合開始前の場合は、試合を開始しない。 また、試合途中に指数が超えた場合は、試合を中断する。 中断の目安は30分程度とする。その後においても指数が35℃以上の場合は試合を中止する。なお、試合成立前の場合は抽選によって勝敗を決する。
33以上 31以上	原則試合の中止	原則、試合は中断、順延、中止とするが、大会運営側の対応（※1-①②③）、及び適宜クーリングブレイクの確保が取られている場合、 <u>両チームの同意がある場合には、主催者の判断において、試合を実施することができる。</u> ※中断の目安は30分程度とする。
28～30	厳重警戒	大会運営側の対応（※1-①②③）、及び、適宜クーリングブレイクの確保が取られている場合には、主催者の判断において実施することができる。

※岩手県KB野球連盟が主催する大会は、上記の表、及び、下述の項目において実施する。

※このことについて、参加チームはこれに了承を得た上で大会並びに交流戦に参加する。

※1日1試合を原則とする。全国大会では、大会運営の都合上、3日目、4日目に2試合を実施する  
場合がある。このことについて、参加チームはこれに了承を得た上で大会に参加する。

■岩手県KB連盟主催大会におけるWBGTの計測の実施 ※1-①

- ① WBGT計測は、大会運営側が下記の要領で実施し、今後の熱中症対策の指標として活用する。
- ② 計測は、競技日ごとに全会場、全試合で実施する。
- ③ 1試合における計測は、試合前、2回終了時、4回終了時、試合終了後の4回とする。特別延長戦の場合は、各イニングの開始時に計測を行う。
- ④ WBGT31℃以上の場合には、計測毎に各チームに計測値を知らせることとする。
- ⑤ WBGT計測器を地上から1.1m～1.5mの高さで、ホームベース付近で計測する。

■熱中症の予防対策 ※1-②

【大会運営側の対応】

球場には常時WBGT計測器を準備し、適時確認し選手の健康面に気を配る。

- クーリングブレイク時には、ベンチ前に散水を行う。
- ベンチに扇風機の持ち込みを認める。運営本部は延長コードを準備すること。
- 緊急時に備え、氷嚢（アイスパック）、スポーツドリンク、経口補水液、タンカ等を準備すること。
- 審判、運営スタッフ、関係者等にスポーツドリンクを用意すること。
- 可能な限り空調の効いた諸室等を準備すること。

■ 試合当日の対応 ※1-③

【大会運営側の対応】

● 原則 WBGT31℃以上の場合、試合は開始しない。

※WBGT31℃以上が試合中に予測される場合、実際に WBGT31℃以上の場合は、①・②を実行し、主催者の判断で試合を実施することができる。(WBGT31℃以上の場合は両チームの同意を得ること。)

① WBGT28℃以上、または、WBGT28℃以上が予想される場合、実際にその指数になった場合

✓ 2回終了時、4回終了時に5分間のクーリングブレイク(給水・身体冷却タイム)を設ける。ただし、1日のうち2試合目のチームが試合をする場合は、6回終了時にも実施する。

✓ 各イニングにて守備時間が20分以上に及んだ場合は5分間のクーリングブレイクを取る。

※特別延長戦の場合は、2イニングごとにクーリングブレイク(5分間)を設ける。

② WBGT25℃以上の場合、各イニングにて守備時間が20分以上及ぶ場合は、5分間のクーリングブレイクを取る。

- 可能な限り救護所を準備する。準備できない場合は、その旨を参加チームに周知する。
- 熱中症が疑われる場合には涼しいところへ移動し身体を冷やすこと。経口補水液や塩分などを速やかに補給する。
- 熱痙攣の場合は一時的に休息し様子を見る。症状が改善されない場合、または、試合中に同じ症状が出た場合は選手交代を促す。
- 試合中に熱中症となった場合は速やかに選手を交代し、涼しい居場所へ移動させる。速やかに、水分・塩分摂取、脱衣・アイシングを行う。症状が改善されない場合、躊躇せず、速やかに救急搬送の措置をとる。(保護者またはチーム関係者のいずれかが選手に帯同する。)
- 意識の無い場合は、直ちに救急搬送の措置をとる。(保護者およびチーム関係者のいずれかが選手に帯同する)
- クーリングブレイク(給水タイム)について  
クーリングを目的としているため、出来る限り日射を遮り、風通しの良い環境を作り休ませる。冷却として氷嚢、冷却水で顔や頭、首やわきの下、鼠径部を冷やす。冷却、給水に当てているため、指導者による作戦タイムとして活用しない。素振りやキャッチボールも禁止する。

【参加者側の対応】

- 食欲不振、寝不足、体調不良など選手の体調変化に目を配り、熱中症にならないよう最大限配慮する。また、安全面を考慮し、体調不良の選手起用は控えること。
- 熱中症予防対策のための、氷、氷嚢、スポーツドリンク等を準備すること。

【参加者側の対応】

- 大会を通し、適時選手の健康状態を確認し、健康面に気を配ること。
- 緊急時に備え、氷、スポーツドリンク、経口補水液を準備すること。  
※球場敷地内に自動販売機等が設置されていない場合があるため、事前に準備すること。
- 試合会場によって、空調の効いた諸室がない場合がある。緊急時に備え、氷やアイスパックを用意すること。また、冷房付きのバス、自家用車などを準備すること。
- 体調が思わしくない選手の起用は控えること。

## ■その他、対応が望ましい熱中症予防対策

### 【大会運営側の対応】

- 散水設備が整う会場では、可能な限り、内野地域に散水を行い、グラウンド温度を下げることを望ましい。  
※7イニングの試合の場合は、試合前・4回終了後に実施することが望ましい。
- 試合時間は可能な限り、WBGT 値が高くなる時間帯（12時～16時）を避ける。
- 活動時間（試合、交流戦）は極力短縮し、1日を通した活動を控える。

## ■熱中症に対する判断と応急処置

